

キリストによる回復

皆さんはこれまでの人生で、絶望し、希望を見出した経験をお持ちでしょうか。 皆さんお持ちだとおもいます。

聖書のマルコによる福音書5章25節から長血をわずらった婦人がキリストにいやされたことが書いてあります。長血というのはどんな病気かははっきりわかりませんが、とにかくこの婦人は出血があって、12年間も苦しんでいたのです。彼女は多くの医者にかかりましたが、どれもその病をいやしてはくれませんでした。「持ち物をみな費やしてしまっただが、なんのかいもないばかりか、かえってますます悪くなる一方であった」と書いてあります。この婦人にとって人生は苦しみの連続であり、絶望でした。



さてこの長血の女は、このような絶望の時にキリストのことを聞いたのです。キリストが神の力で病をいやしておいでになることを聞いたのです。彼女の心に希望がわいてきました。キリストを信じ、キリストにたよる心が起こってきました。そして群衆にまぎれてキリストに近づきその衣のすそにさわったのです。すると直ちにその病がいやされました。その時キリストは、「この女の信仰が、その病をいやしたのだ」といわれました。



この女がキリストにふれたということは、この女とキリストの新しい関係をあらわしています。キリストを信じ、キリストに頼る信仰ができてきたとき、また神を受けいれ、神に従って生きるようになったとき、いやしが与えられました。

この女のいやしは、私たちが神を発見し、私たちの生活を神と関連付けるときに、絶望的な人間の問題にも希望ある解決が与えられることを示唆(しさ)しています。

今朝は、

聖書や証の書を通してキリストによる回復について考えてみましょう。

それは、罪のなかにある絶望的な人間の問題に希望ある解決を与えるテーマだからです。

まだ罪の侵入していない、創造当初から見てみましょう。

人類のあけぼの 上巻22

創造は、ついに完成した。「こうして天と地と、その万象とが完成した。」
「神が造ったすべての物を見られたところ、それは、はなはだ良かった」
(創世記 2:1、1:31)。 エデンは、地の上で栄えた。アダムとエバは自由に
いのちの木のところに行くことができた。この美しい世界のどこを見ても、
罪の汚れや死の陰はなかった。「明けの星は相共に歌い、神の子たちは
みな喜び呼ばわった」(ヨブ 38:7)。

偉大な神は、地の基を置かれた。彼は、美しい衣で全世界を飾り、人間
のために役立つものを地に満たされた。彼は、地と海に満ちるあらゆる 驚
異 すべきものを創造なされた。

地球が創造主のみ手によって造られたとき、それは非常に美しかった。その表面には、山や丘や野原があって変化に富み、きれいな川や美しい湖水が、ここかしこにあった。しかし、山や丘は、現在のように、けわしく、荒けずりでなく、恐ろしい絶壁や裂け目などはなかった。地球の骨組みをなす岩かどは、肥沃^(ひよく)な土地におおわれて、いたるところで、緑の草木が繁茂していた。気味の悪い沼や、不毛のさばくはどこにもなかった。どちらを向いても、優雅な灌木^(かんぼく)や優美な花が視線をとらえた。丘は、今はえているどんな木よりも堂々とした樹木で飾られていた。空気は、臭気で汚染されておらず、清らかで健康的であった。回りのけしきは、どんなりっぱな宮殿の飾り立てられた庭園よりも、はるかに美しかった。天使の群れは、その光景をながめて感激し、神のすばらしい みわざ に歓喜の声をあげた。

人類のあけぼの 上巻 20

人間は、外観においても、品性においても、神のかたちを保っているはずであった。キリストだけが、天の父の「本質の真の姿」ではあるが、人間は、神に似せて造られたのである(ヘブル 1:3)。彼の性質は、神のみ旨と調和していた。人間の知力は、神の事物を理解することができた。彼の愛情は清く、食欲や情欲は理性の支配のもとにあった。彼は、神のかたちをしていて、神のみ旨に完全に服従していたので、清く、幸福であった。 →

人間が創造主によって造られたとき、彼は背が高く、完全に均整がとれていた。彼の顔は、血色がよく、生命と歓喜の光に輝いていた。アダムの身長は、今日のだれよりも、はるかに高かった。エバは、アダムよりは少し低かったが、その姿は気高く、美しかった。罪のない彼ら2人は、手で造った衣服を身にまとっていなかった。彼らは、天使が着るような光と栄光の衣をまとっていた。彼らが神に従って生活するかぎり、この光の衣は、彼らをおおっていたのである。

人類のあけぼの 上巻 20

10

しかし、罪が侵入してきました。

罪の結果は？

アダムとエバが善悪を知る の 木の實を食べて、罪を犯したために、神は地をのろいたもう た。そして、「あなたは一生、苦しんで地から食物を取る」と宣告なされた。(創世記 3:17) 神はこれまで、彼らに幸福だけを与えて、不幸を与えないでおかれた。今神は、彼らに善悪の木の實を食べさせる、すなわち彼らは一生の間、悪というものを知らなければならぬと宣告なされた。



それ以来人類は、サタンの誘惑にたえず苦しめられることになった。これまで楽しんできた幸福で愉快的な労働の代わりに、いつまでも絶えることのない苦労と心配の生活を、アダムは送らねばならなかった。彼らは失望し、悲しみ、苦しみ、ついには死なねばならないのだ。土の塵(ちり)をもって造られた彼らは、ふたたび土の塵(ちり)に帰らねばならないのだ。

生き残る人々 54

13

教育 17

アダムとエバは、悪の知識を選んだ。もし彼らが、その失った地位を回復しようとするれば、それは、彼らが自ら招いた不利な事情の下に回復されなければならなかった。彼らはもうエデンに住むわけにはゆかなかった。彼らがこんど学ばなければならない教訓は、エデンの完全さの中にあっては学ぶことのできないものであった。言い表しようのない悲嘆の中に、彼らは、美しい環境に別れを告げ、罪にのろわれた地上に住家をもとめて立ち去った。

しかし、神の愛は、すでに、人間をあげなう計画
(人類救済の計画)をたてていた。

教育 4～5

罪のために、神のみかたちは傷つけられ、ほとんど消えてなくなるばかりとなった。人の体力は弱くなり、知的な能力は低下し、霊的な眼はくもった。人間は死ななければならない身となった。しかし人類は、望みのない状態のままに捨ててはおかれなかった。限りない愛とあわれみによって、救いの計画がたてられ、生命の猶予があたえられたのである。人類を創造された神の御目的が実現されるように、人の中に創造主のみかたちを回復し、人を創造当初の完全な姿にもどし、知、徳、体の発達を促すこと、これが救済の働きとなるべきであった。これが教育の目的であり、人生の大目的である。

しかし人は自ら選んだ罪の結果の中に捨てられたままでおかれなかった。サタンに対する宣告の中には、救済の暗示が含まれていた。神は、「わたしは恨みをおく、おまえと女とのあいだに、おまえのすえと女のすえとの間に。彼はおまえのかしらを砕き、おまえは彼のかかとを砕くであろう」(創世記3:15)と宣言なされた。この宣言は、アダムとエバにも聞こえるように告げられ、それは、彼らへの約束となった。彼らは、自分たちが経験しなければならぬいばらやあざみのことや、労苦や悲哀のことや、土に帰らなければならぬことなどを聞く前に、希望を与えずにはおかない約束の言葉をきかされた。サタンに屈服したために失われたすべてのものは、キリストによって再びとりもどされることができるようになった。

キリストは天を人に開かれるが、一方また人の心は、キリストのおあたえになる生命によって、天にむかって開かれる。罪は人を神から離れさせるばかりでなく、人の魂から神を知ろうとする願いと能力とを滅ぼしてしまう。こうした罪の働きをすべて無力にしようとするのがキリストの働きである。キリストは、罪によってまひした魂の能力や暗くなった心やゆがめられた意志を活気づけ回復する力を持っておられる。キリストは宇宙の宝庫をわれわれに開いてくださる。これらの宝をみとめ、活用する能力が、キリストから授けられるのである。

教育75

人々は、神のみかたちを失い、自分を支配している悪魔的な力に心をうばわれた。全世界は腐敗の汚物だめになりつつあった。

このように不和と墮落の成分をもったかたまりの中に、新しいパン種が投じられるというただ1つの希望が人類にあった。そこには、人類に新しい生命力がもたらされ、神の知識が世に回復されるはずであった。キリストは、この知識を回復するためにおいでになった。彼は、神を知っていると公言している人々が、神を誤り伝えているその偽りの教えをとりのぞくためにおいでになった。彼は、神の律法の性格を明らかにし、ご自身の品性の中に聖潔の美しさを表わすためにおいでになった。

サタンは、人間のうちにある神のみかたちをいやしいものにすることに成功したと狂喜していた。 その時イエスが、人間のうちに創造主のみかたちを回復するためにおいでになったのである。罪のために墮落した品性を新しく形づくることができるのはキリストよりほかはない。主は人間の意思を支配していた悪霊を追い出すためにおいでになった。主はわれわれを塵(ちり)の中から起し、 けがれた品性をご自分のきよい品性に型どってつくり直し、ご自身の栄光をもってそれを美しいものとするためにおいでになった。

聖書全体のあらゆるテーマの中でその一大中心となるべきテーマは、救済の計画すなわち人の魂の中に神のみかたちを回復することである。エデンで言いわたされた宣告の中にみられる最初の希望の暗示から、黙示録の中に、「御顔を仰ぎ見るのである。彼らの額には、御名がしるされている」(黙示録22:4)とある最後の輝かしい約束にいたるまで、聖書の各巻各ページの主旨は人類を高めるという驚くべきテーマと、「わたしたちの主イエス・キリストによって、わたしたちに勝利を賜わった」(コリント人への第一の手紙15:57)神の能力を示すことにある。

福音の本質は回復であって、救い主は、われわれが病人や望みなき者や苦しんでいる者たちにイエスの力にすぎるようにすすめることを望んでおられる。

私たちは如何にすべきか？

すべての世界を出現させた創造のエネルギーは、神のみ言葉のうちにある。神のみ言葉は能力を与え、生命を生ぜしめる。神のご命令の1つ1つは約束であって、意志がこれに同意し、魂がこれを受け入れるときに、そこには同時に限りない神の生命がもたらされる。それは人の性質を一変させ、魂を神のみかたちに再創造する。

土を耕すことから、たえず教訓が学ばれる。種のまかれていない土地からすぐにも収穫があるような期待をもつ人はだれもいない。土地を準備し、種をまき、作物を育てるには、勤勉な忍耐強い努力が必要である。霊的な種まきもその通りである、心の畑は耕されなければならない。土は、悔い改めによって、くだかれなければならない。よい作物を妨げる悪の成長は根絶されなければならない。1度いばらの生い茂った土地は、勤勉な働きによって回復されなければならないように、キリストのみ名と力によって、熱心に努力するときのみ、心の中の悪の傾向にうち勝つことができる。

肉体が精神に及ぼす影響はもちろん、精神が肉体に及ぼす影響も強調されなければならない。知的な活動によって促される頭脳の電力は、身体の全部に生気をあたえ、病気に対する抵抗を測り知れないほど助ける。このことを明らかにしなければならない。 健康を保つにも回復するにも、意志力と克己がたいせつであること、すなわち、怒りや不満や利己心や不純な心は健康を低下させるばかりでなく、破滅的な影響さえあたえ、これに反して快活、無我、感謝の心には生命を与えるおどろくべき力があるということを明らかにしなければならない。

キリストは雲の柱の中から、安息日に関して宣言し「あなたがたは必ずわたしの安息日を守らなければならない。これはわたしとあなたがたとの間の、代々にわたるしるしであって、わたしがあなたがたを聖別する主であることを、知らせるためのものである」(出エジプト記31:13)と言われた。神が創造主であることのしるしとして、この世界に与えられた安息日は、また彼が聖別する神であることのしるしでもある。

万物を創造された力は、人を彼ご自身に似せて再創造する力である。安息日を清く守る人々にとって、それは清めのしるしである。真の清めは神との調和であり、彼と同じ品性になることである。それは、彼の品性の写しである原則に、服従することによって得るものである。そして安息日は、服従のしるしである。心から第4条の戒めを守る者は、律法全体に服従し、服従することによって彼は清められるのである。

祝福の山109～110

金を愛することが、他の何ものよりも、当時のユダヤ人の心を捕えていた欲望であった。心の中で、神が占めるべき位置を世俗が横領していた。これは今日も同じである。富をむさぼる気持ちは人間を全く魅了し、そのために人間の高貴さがそこなわれ、人間性が墮落して、ついに破滅の淵に陥ってしまうようになるのである。サタンに仕えることはわずらわしく、複雑で、身心を消耗させるものであり、人が嘗々として地上に蓄積する宝は、ほんの一時的のものにすぎない。



祝福の山110

「自分のために、天に宝をたくわえなさい」と教えられている。天の宝を手に入れるのはあなたのためなのである。あなたの持つすべてのもののの中で、これだけが本当にあなたのものである。天にたくわえられる宝は不滅である。それは神が守ってくださるから、火も洪水も滅ぼすことができず、盗人も奪うことができず、虫も食わず、さびもつかない。



祝福の山111

キリストは、わたしたちにこの宝のために働けと命じておられる。

品性こそ、人生の大きな収穫である。

そして、キリストの恵みによって人の心の中に、
天のことを思わせる言葉や行い、またキリストのような
品性を築こうと努めるあらゆる努力などが宝を天に積む
のである。

どんなに汚れ、墮落した人であっても、
この力の及ばないところまで落ち込んではいけない。

どんな人でも、聖霊に服従するならば、
新しい生命の原則が植えつけられ、
失われた神のみかたちが人類の中に回復される
のである。

神は、

「もしあなたがたが一心に

わたしを尋ね求めるならば、

わたしはあなたがたに会う」 (エレミヤ 29:13, 14)

と約束したまいました。



私どもは全身を捧げて神に従わねばなりません。
さもなければ、私どもを神のみかたちに回復する
変化は起こらないのであります。 →

私どもは、生まれながら神に遠ざかっています。

聖霊は私どもの状態を次のように言っています。

「自分の罪過と罪とによって死んでいた者」(エペソ 2:1)

「その頭はことごとく痛み、その心は全く弱りはてている。

足のうらから頭まで完全なところがなく」(イザヤ 1:5, 6) と。

私どもは全く「悪魔に捕えられて」(Ⅱ テモテ 2:26)

彼の思いのままに、しっかりととりこにされているのであります。



神は私どもをいやし、解放しようと望んでおいでになります。けれどもこれには全き改革、つまり 私どもの性質を全然新しくしなければなりませんから、私どもはおのれを全く神に捧げなければなりません。

キリストへの道 53ページ

高慢な心は、自分の行為によって救いを得ようと努力する。
しかし天国に入る権利書と資格はキリストの義のうちにある。

自分自身の弱さを自覚し、すべてのうぬぼれを取り去って、

自分自身を神の支配にまかせるまでは、

主は、その人の回復のために何もすることがおできにならない。

自分自身を神にまかせる時に、

彼は、神が与えようと待っておられる賜物を受けることができる。

必要を感じている魂にはどんなものも与えられないものはない。

人間の自由が可能であるただ1つの条件は、

キリストと1つになることである。「真理は、あなたがたに自由を得させるであろう」とあるが、キリストがその真理である(ヨハネ 8:32)。

罪は、心を弱め、魂の自由を滅ぼすことによってのみ勝利することができる。

神に屈服することは、自分自身を回復すること、すなわち人間の真の栄光と威厳とを回復することである。われわれは、神の律法に従うようになったが、それは「自由の律法」である(ヤコブ 2:12)。

回復について、参考に（1990年10月～12月 教課 89～904）をみて
みましょう。

一度も罪を犯したことの無い人がいたとすれば、その人は律法によって義とされるでしょう(ローマ10:5)。しかし、「すべての人は罪を犯した」とあります(ローマ3:23)。したがって、私たちは自分のわざによって義となることができません。キリストの聖なるかたちを回復するためには彼に全的に頼るしかありません。それはどのようにしてなされるのでしょうか。

パウロは先に、聖霊による義の賜物について語っています(ローマ8:9,10)。悔い改めて、信じる罪人は神の義なる律法に調和した者となると述べています(ローマ8:3,4)。彼はさらに、神がどのようにして私たちを霊的に回復されるのかを明らかにしています。彼は信仰による義を、信じる者の心に律法が記されることであると定義しています。

パウロはここで申命記30:11～14を引用しています。ここに言われている、心に書かれた言葉とは神の十戒のことです。ローマ3章、8章、およびローマ10章におけるパウロの論点を総合して考えるときに、私たちは次のように結論づけることができます。すなわち、聖霊が私たちの心に住まれるときに、私たちを神のきよい律法に完全に調和した者としてくださるということです。心に律法が書かれるということは、聖霊によってキリストご自身が私たちに与えられるということです。

それでは、新天地について、みてみましょう。

口語訳聖書

(イザヤ書65:17~19)

見よ、わたしは新しい天と、新しい地とを創造する。さきの事はおぼえられることなく、心に思い起こすことはない。しかし、あなたがたはわたしの創造するものにより、とこしえに楽しみ、喜びをえよ。見よ、わたしはエルサレムを造って喜びとし、その民を楽しみとする。わたしはエルサレムを喜び、わが民を楽しむ。泣く声と叫ぶ声は再びその中に聞こえることはない。

リビングバイブル

(イザヤ書65:17~19)

わたしは新しい天と新しい天と地とを造る。それは目を見張るほどすばらしいので、もうだれも、古い天と地とを思い出さなくなる。わたしの造るものをいつまでも喜べ。わたしはエルサレムを、幸福の都として建て直す。そこに住む者はいつも喜びにあふれる。エルサレムとわたしの国民とは、わたしの喜びだ。そこにはもう、泣き声や叫び声は聞かれない。

口語訳聖書

(イザヤ書65:25)

「『おおかみと子羊とは共に食らい、ししは牛のようにわらを食らい、へびはちりを食物とする。彼らはわが聖なる山のどこでもそこなうことなく、やぶることはない』と主は言われる。」

リビングバイブル

(イザヤ書65:25)

「狼と子羊はいっしょに草を食べ、ライオンは牛のようにわらを食べ、蛇はちりを食べて、人にはかみつかない。その時、神の聖なる山では、傷つくものは一人もなく、こわれるものは一つもない。そう神様は断言なさいます。」

そこでは、人類の失われた統治権が回復され、
動物たちは、ふたたび人類の支配に服し、
猛獣はおとなしくなり、おく病な動物は信頼する
ようになる。

※ そこでは:新天地では

そこではあらゆる能力が発達し、あらゆる才能がまし加わるであろう。どんな大事業も遂行され、どんなに高遠な抱負も達成され、どんなに遠大な目的も実現されるであろう。それでもなお さらに越えるべき新しい高さ、感嘆すべき新しい驚異、理解しなければならない新しい真理、知・徳・体の能力を要する新しい目的が現われるであろう。

ヨハネの黙示録21:1～5

わたしはまた、新しい天と新しい地とを見た。
先の天と地とは消え去り、海もなくなってしまった。
また、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために
着飾った花嫁のように用意をととのえて、神の
もとを出て、天から下って来るのを見た。 →

また、御座から大きな声が叫ぶのを聞いた、「見よ、神の幕屋が人と共にあり、神が人と共に住み、人は神の民となり、神自ら人と共にいまして、人の目から涙を全くぬぐいにとって下さる。もはや、死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない、先のが、すでに過ぎ去ったからである」。 →

すると、御座にいますかたが言われた、「見よ、わたしはすべてのものを新たにする」。また言われた、「書きしるせ。これらの言葉は、信ずべきであり、まことである」。

ヨハネの黙示録21:1～5

キリストの実物教訓 2ページ

地球は、罪に損なわれてしまった。しかし、その破壊された状態にあっても、なお、美しいものが多く残っている。神の実物教訓は消し去られてはいない。正しく理解しさえすれば、自然は、その創造者について語るのである。

伝道の書 3:11

「神のなされることは皆その時にかなって美しい。 神はまた人の心に永遠を思う
思いを授けられた。 それでもなお、人は神のなされるわざを初めから終りまで見きわめることはできない。」

キリストへの道 72ページ

み約束を読むとき、そのみ言葉は言い表すことのできない愛とあわれみの表現であるということを覚えましょう。無限の愛の神のみ心は、はかり知れないあわれみをもって罪人をひきつけて いたまいます。「その血によるあがない、すなわち、罪過のゆるしを受けたのである」(エペソ1:7)。 そうです。あなたを助けることができるのは、ただ神のみであることを信じて下さい。

神はご自身の真のかたちを人間のうちに回復したいと望んでおいでになります。告白と悔い改めによって神に近づくなれば、神はあわれみとゆるしをもって私どもに近づきたもうのであります。

もう終わりますが、

キリストへの道 72ページ

疑い、わななく人々よ、目を上げて見ようではありませんか。

イエスはなお生きて、私どものために執り成しをしておいでになります。

神が愛するひとり子をお与えになったことを感謝するとともに、

かれの死が無駄にならないように祈りましょう。

聖霊はきょう、あなたを招いて いたまいます。

全心をささげて、イエスのもとに行きましょう。

そうすれば主の祝福を自分のものとすることができるのであります。